

鳥羽のお宝 再発見!



vol.39

教育委員会生涯学習課

☎ 25 1 2 6 8

「九鬼守隆が主人公の歴史小説の連載が始まりました!」

鳥羽城の築城主で、九鬼水軍の大将である九鬼嘉隆については、みなさんもご存じだと思います。しかし、嘉隆の跡を継いだ息子・守隆^{もりたか}についてはあまり知られていないかもしれません。

守隆は天正元（1573）年に鳥羽に生まれました。慶長2（1597）年に嘉隆か



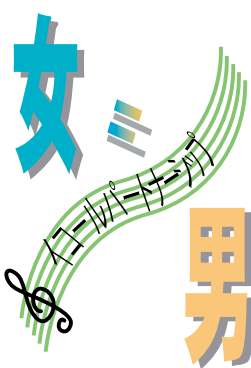
九鬼守隆の墓（兵庫県三田市）



守隆が寄進した常安寺の石灯籠

ら家督を継ぎ、慶長5（1600）年の関ヶ原の戦いでは、家康方の東軍につき、西軍についています。戦後、守隆は父の助命を家康に嘆願して受け入れられました。父の死はあったものの、関ヶ原の戦いの功績により守隆の領地は3万5千石に2万石加増、後に1千石加増され、

九鬼家は5万6千石となり、繁栄のピークを迎えました。慶長19（1614）年の大坂冬の陣でも守隆は、徳川の幕府方の水軍として出陣し、手柄をたてています。九鬼家は守隆の時代にも引き続き水軍として外様の小さな大名ながら水軍部隊として特殊な地位にあったのです。嘉隆の影に隠れがちですが、守隆は鳥羽藩の初代藩主として、非常に優秀な人物であったことが分かります。そんな守隆が主人公となった歴史小説が7月2日から中日新聞の夕刊紙上で連載が始まりました。著者は「信長の棺」という作品で、ベストセラーとなった加藤廣氏です。将来的に大河ドラマ化の原作になる作品として期待は膨らみます。



平成24年版 男女共同参画白書

vol.107

市民課人権・生活係

☎ 25 1 1 2 6

内閣府男女共同参画局は、「平成24年版男女共同参画白書」を公表しました。

男女共同参画白書（以下「白書」とは、男女共同参画社会基本法に基づき、毎年国会に提出するもので、その年の男女共同参画推進に関する課題などを掲げたものです。

本年の白書は、「男女共同参画の視点からの防災・復興」が特集されています。

例えば、この白書における調査で、女性は、男性に比べ、総じて災害の影響を受けやすいことが明らかになり、また、男性は、日ごろから地域社会との関わりが少ないことから、仮設住宅などにおいて孤立化が懸念されることなど、復旧・復興のプロセスで、男女のニーズの違いに配慮する必要がありますがある、と分かりました。

特集の最後では、女性は決して守られるだけの存在では

なく、男性とともに災害への備えに主体的に取り組むべき存在であること、また、声を出しにくい、あるいはその声が届きにくい人々に配慮し、誰をも排除しない社会をつくっていくことは、災害の影響を受けやすい人々の孤立化などのリスクを減らすことにつながる、としています。そして、これらの視点は、被災時に限られることではなく、社会全体のあり方に関わることとして、日ごろから必要とされるもので、「男女共同参画社会の実現は、災害に強い社会づくりでもある」と締めくくられています。

